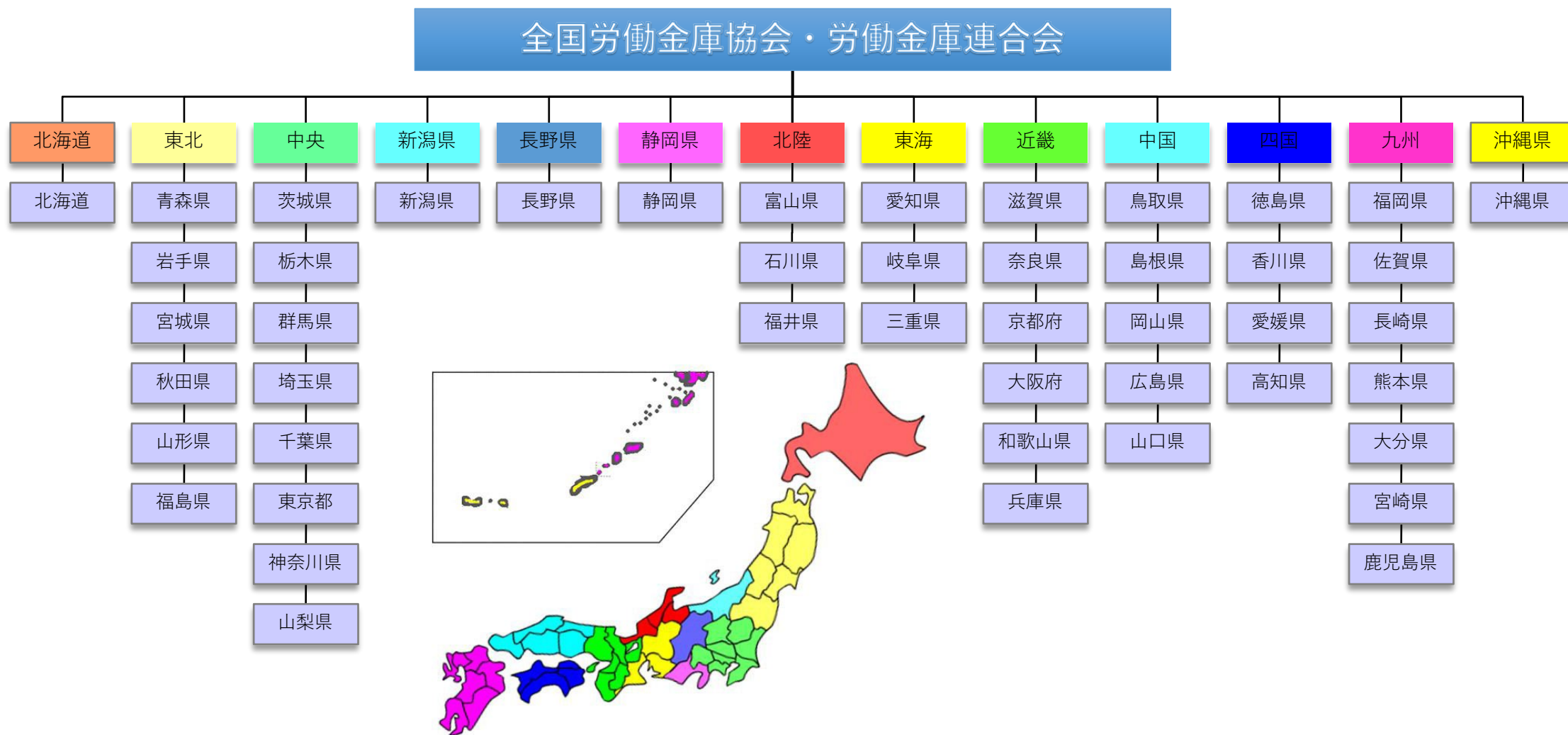


金融機関の内部監査高度化に関する懇談会 〈説明資料〉

2025年 2月 19日

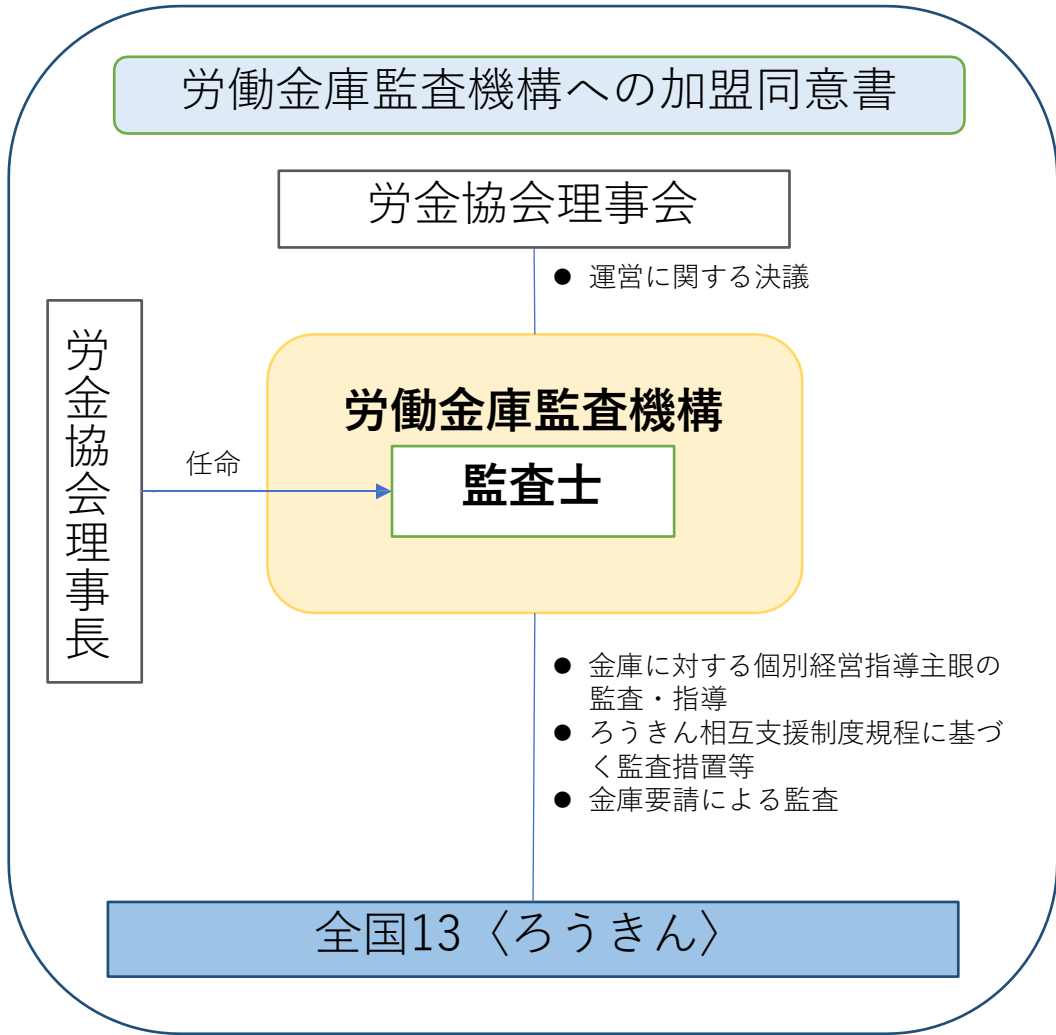
一般社団法人 全国労働金庫協会

1. 労働金庫業態の現状 ① 全国<ろうきん>ネットワーク

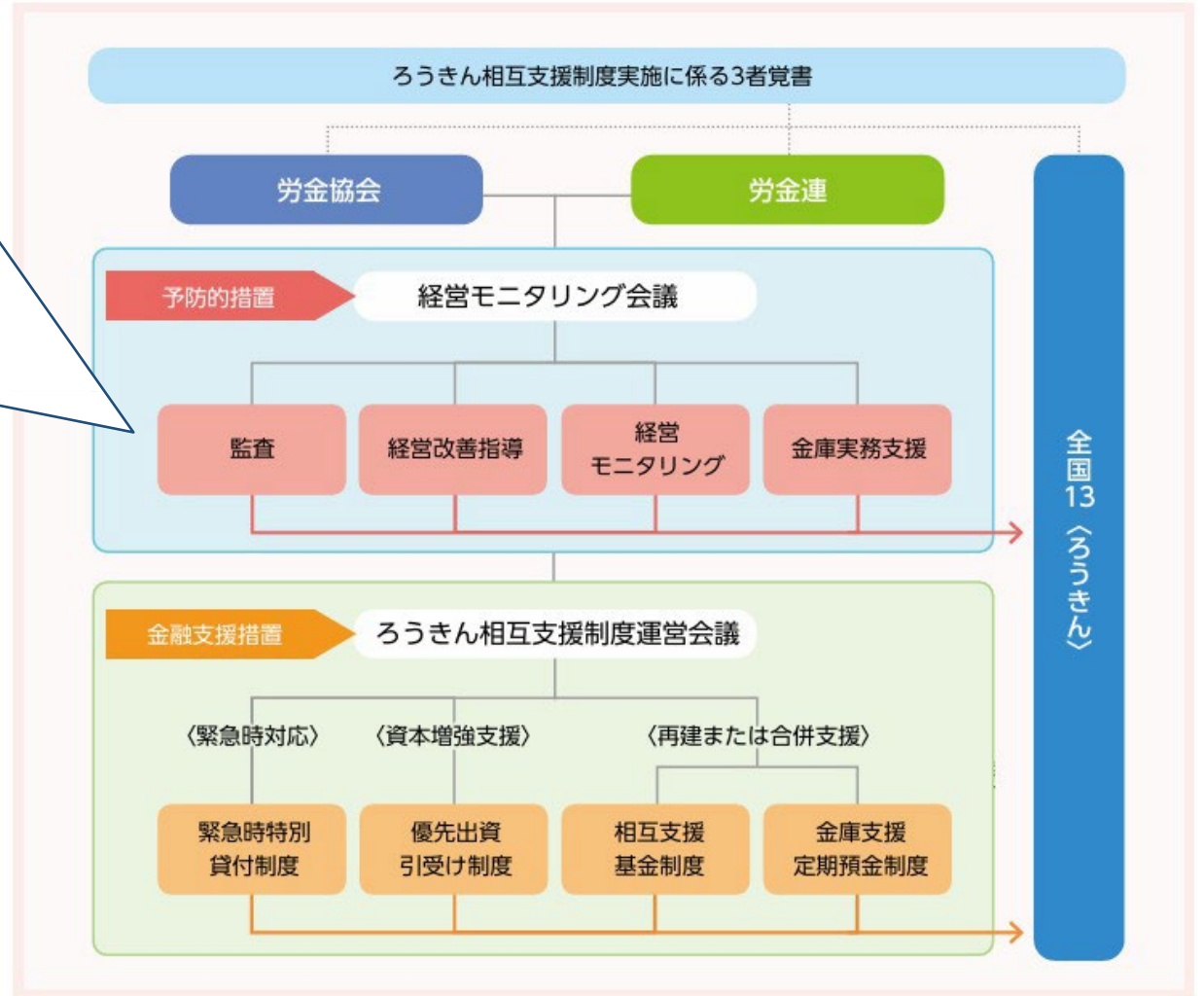


1. 労働金庫業態の現状

② 業態セーフティネット



ろうきん相互支援制度



1. 労働金庫業態の現状

③ 内部監査高度化に向けた取り組み

2019年6月 金融庁「内部監査の高度化に向けた現状と課題」公表

2022年2月開催の全国内部監査担当責任者会議で学習会を実施

- ➡ 2021年度の全国内部監査担当責任者会議時点では事務不備監査段階に留まっていた金庫もあったが、全金庫がリスクベース・アプローチによる監査に移行しており、金庫によっては経営目標の達成に資する内部監査の実践による実効性のある監査を志向する動きもある。
- ➡ 以降、各金庫において個別に取組みを実施

2023年10月 金融庁「『金融機関の内部監査の高度化』に向けたプログレスレポート（中間報告）」公表

2024年 9月 金融庁「金融機関の内部監査の高度化に向けたモニタリングレポート（2024）」公表

2024年12月開催の全国内部監査担当責任者会議で情報共有と意見交換を実施

- ➡ 内部監査を高度化（専門性の向上）するための人材育成、キャリアパスとしての位置づけなどについて情報共有し、次年度監査方針に向けて内部監査の高度化について意見交換することで全体の底上げを図った。

2. 報告テーマ ① 段階別評価(四段階)の水準感と実務上の課題

テーマ ①	報告
①レポートの事例と段階別評価との関連付けで、不明瞭な点は何か	● 成熟度の水準（4つの段階）と3つの論点にかかる好事例の相関が分かりづらい ● とはいえ、そもそも事案ごとに各段階はあると考えれば、きれいに関連付けする必要はない。 ● ただ、自金融機関で行っている「この取組み」は「第〇段階」レベルという関係性でみればよいのでは。 ● 厳密な段階分けを目的とせずに、内部監査水準の高度化のための現状を測る「目安」として捉える。
②実務の観点から、各段階の水準感をどのように捉えているか	● 第一段階…営業店における事務不備監査 ● 第二段階…本部・営業店のリスクアセスメントに基づくプロセス監査 ● 第三段階…より多角的な視点によるリスクアセスメントに基づくプロセス監査 ● 第四段階…経営戦略策定に資する将来変化を踏まえたリスクアセスメントに基づくプロセス監査
③内部監査の高度化に取り組む際の指針（目線・水準感）を示す観点から不足する点（明確化すべき点）は何か（3つの論点と各段階の水準との間で整合性を図るべきポイントは何か）	● 第四段階の「経営戦略に資する助言」のイメージが分かりづらい。 ● 経営戦略に資する助言とは、策定段階での助言なのか実行段階での助言なのか。 ● 具体的に助言の範囲はどこまでなのかなど「執行」との線引きが難しい面がある

2. 報告テーマ ② 内部監査の「目指すべき段階」

テーマ ②	報告
①各会員会社・業界の実情（業界を取り巻く環境等）を踏まえ、現状、内部監査はどのような位置づけにあると考えているか、今後（業界の実情を踏まえ）、どのような姿を目指すのか（目指すべきか）	● 労金業態は単独金庫、地域統合金庫が混在しており、内部監査の段階では第一段階から第二段階の途上と第二段階にある。 ● 外部環境面では、他業種による金融サービスへの参入が相次ぐ中、労金の顧客である勤労者に支持されるためにより一層「理念」を体現しつつ、有効なマネロンへの対応を行うことが求められており、内部的には業態のビジョンにおいて「すべての職員が経験や能力を最大限発揮して活躍し、働き続けられる職場環境の整備」を掲げており、その実現に向けても第三線による実効性ある合理的な内部統制の検証と改善が必要な状況である。 ● 業態として第二段階から第三段階への高度化を図っていきたい。具体的には準拠性監査によってガバナンスの実効性を検証しつつ、全体統制の検証と改善を行うために、リスクアセスメントに基づくリスクベース監査の精度向上による金庫全体のガバナンスマネージに資する提言を経営陣に行える姿を目指す。
②上記「目指す姿」に近づけるために、レポート等においてどのような材料（取組内容、基盤整備等）が必要と考えるか	● 各論点における自金融機関の現状がどの程度の成熟度（段階）かが測れる「成熟度の水準と好事例でマトリクス」、いわば「成熟度チェックリスト」的なものが必要と考える。

2. 報告テーマ ② 内部監査の「目指すべき段階」

テーマ ②	報告
③「現行第四段階の定義」において、何が不足しているか	● 「経営戦略に資する助言」の具体的な事例や提言方法など。 ● 「執行」と「助言」の境目が曖昧。
④「第四段階」のイメージ（あるべき姿）をどのように捉えているか	● 経営陣にとって経営戦略策定に向けた信頼できるアドバイザーとして合理的な内部統制に基づく戦略の実行を実現する提言を行う。
⑤「第四段階」を実現するための実務上の課題は何か	● 内部監査の役割に対する経営陣の意識変革 ● 内部監査エキスパートの育成、人事制度上のキャリアパス ● リスクアセスメントを踏まえた環境分析を行う人材、マーケティングを行う人材等（経営戦略策定部門と同等の人材）の育成